

【ルカによる福音書連続講解説教】 福音と祈りの福音書 131  
 大垣伝道所 礼拝 説教原稿 辻 幸宏

---

日 時：2018年2月18日

説教題：「神の御国を目指すキリスト者」

聖 書：(新約) ルカによる福音書21章25～38節

## 序

朝の礼拝においては、ルカによる福音書より聞き続けてきました。最後の礼拝が行われる来週は、旧約聖書申命記からとなりますので、ルカによる福音書は、最後になります。主イエスの十字架と復活が語られている最後まで読み終えることが出来なかったことは残念ですが、主イエスが十字架を前に、神の御国を指し示すテキストが最後に与えられたことは、午後の感謝礼拝において説教をいたしますヨハネの黙示録のテキストと共に、今日、集われたお一人おひとりが、これからの信仰生活を送っていく上で、神の御国の完成というゴールに向かっていくということでは、相応しいテキストが与えられたのではないかと考えています。

## 1. 途上にあるキリスト者

### ①ゴールである神の御国を目指すキリスト者

さて、私たちキリスト者にとりまして、教会生活、つまり教会での礼拝と兄弟姉妹との交わりは、非常に大切なことなのです。しかし忘れてはならないことは、これがゴールではないということです。私たちの目指すべきゴールは、神の御国（天国）であり、天国における永遠の生命における神との交わりです。

最初に信仰告白として、ウェストミンスター大教理問答問90を告白しましたが、私たちキリスト者が、最後の審判において義人とされ、神の御国における祝福に与る姿が約束されています。そこでは罪と悲惨から完全に解放され、永遠の救いの喜びが約束されているのです。ここに私たちキリスト者の生きる希望があります。

### ②途上に生きるキリスト者

私たちがキリスト者が、今なおゴールを目指して歩んでいることを語る時、それは別の見方をすれば、現在は途上にあるということです。私も編集に携わりました改革派教会史は、「途上にある教会」というサブ・タイトルが付いています。一昨年出版しましたのが2であり、創立30周年から50周年について記されています。

### ③信仰を妨げる出来事

そして、私たちが、ゴールに向かって歩みつつも、まだ途中にあるとすればどういことが起こるのかということを考えなければなりません。今、冬季オリンピックが行われており、様々な競技が行われていますが、選手は自らの力をすべて出し切って競技を行います。時としてアクシデントが起こります。自然現象によるもの、自らの失敗によるもの、あるいは他の選手と接触するということがあります。

一つの失敗が、結果を大きく左右します。

神の御国に向けて歩み続けるキリスト者の生活も同じです。そのため、時として、不安に陥り、苦しみ、立ち止まり、恐れ、時には神の御国への歩みを諦めようとするのです。私たちが信仰の道から引き離そうとする力も時として働きます。

そして、戦争や革命、そして天変地異のような大災害が到来する時、私たちは自分自身のこと以上に、世界の終末を意識するようになるのです。

## II. キリスト者として歩み続けるために

### ① 社会状況を確認せよ！

それでも、なお私たちがキリスト者としての歩みを続けて行こうとする時、事前にアクシデントに対応出来るように、訓練を積み、危険を回避することが求められます。

この時に、私たちにとって大切なことは、二つあります。一つは、周囲つまり社会の状況を確認・理解することであり、観察力といっても良いでしょうか。

それは農作物を育てる方が、その時その時に必要な手入れを知っており、栄養を補給する、雑草を取る、間引きする、水をこまめに補給するといった作業を行い、台風などの災害が予想される時には特別に防御対策を行ったりすることと同じであります。社会に対して敏感になり、社会を動かそうとしている人たちが、何を意図してそのようなことを行っているかを理解しなければなりません。時代を読み解く力です。

### ② 御言葉に聞き続けよ！

そしてもう一つ。主が私たちに御言葉をもってお語り下さる聖書の御言葉に耳を傾け、聖書の説き証しである説教を聞き続けることが求められます。

### ③ 信仰の武具を身に着けること！

つまり、周囲の状況を理解するだけでは、どのように対応すれば良いのか、私たちは自分で判断することが出来ません。私たちの救い主、主なる神さま、そして御子イエス・キリストは、私たちが主にあって生きる道を、御言葉をもってお語り下さいます。別に言い方をすれば、信仰の武具を身に着けるということです。繰り返し確認して来た御言葉ですが、エフェソ 6 章10～18節 (p359) でパウロが語っています。この時大切なことは、自分で判断することではなく、主の御前において謙遜になり、へりくだって、主に従うことです。

自分で対処しようとするから、恐れ、混乱するのです。主に解決を委ねた時、主は必要を満たして下さいます。そして、主は私たちをとおして、神の義が示されることを期待されており、不義に打ち勝つことです。敵対・対立することではなく、平和を築くために和解することです。

### Ⅲ．終末の時代におけるキリスト者の生活

#### ①目を覚ましておけ！

そして、主イエスは終末の時代に生きる私たちに対して、心を鈍らせることなく、目を覚ましておくように、お語り下さいます。「**その日**」つまりキリストの再臨と裁きの日は、**不意**に訪れます。

私たちの日々の生活にあって、終末的な徴は、日々与えられますが、「これが終末だ」と特定することは出来ません。しかし同時に、「まだ大丈夫だ」と油断してもダメであると、主イエスはお語りになるのです。**放縦や深酒や生活の煩い**は、自分を失わせ、主の存在を忘れさせるからです。

主は私たちが神さまを信じ、洗礼を受け、救われた。だから何を行ってもよ良いと語っておられるのではありません。十字架の死から三日目の朝に復活して下さった主イエスは、天の御座から再臨され、最後の審判を行うと宣言されています。その時が、いつ来ても良いように、準備をしておくことが、私たちに求められているのです。私たちが救われ、与えられようとしている神の国は、神の備えられた場所であり、聖なる場所です。日に日に汚れ、罪の中、歩んでいる私たちが住むにはふさわしい場所ではありません。しかしながら、その様な私たちであっても、主はなお、神の国に私たちを招いて下さるために、罪の償いをキリストの十字架を通して、成し遂げて下さったのです。

#### ②どのような準備をするのか？

そのために主イエスは、「**目を覚まして祈りなさい**」とお語りになります。どの様に準備し、目を覚ましておけば良いのでしょうか？それは何よりも、礼拝に与ることです。つまり、礼拝における御言葉の説教・洗礼と聖餐の礼典に与り、祈り続けることです。

礼拝では、御言葉の説教と洗礼・聖餐が、礼拝に与っている人々がそれを取り囲み、神の恵みに与るのです。この三角形は、つまり、洗礼を受け、神の子とされている者たちが、御言葉と聖餐によって、日々、神の恵みに与っていることを、見える形を通して、示しているのです。そして、この洗礼盤・聖餐卓・説教壇を会衆が取り囲む。そうすることによって、神と私の関係だけではなく、神によってつながれている兄弟姉妹の有機的な関係も、礼拝を通して生まれてくるものだと思います。

#### ③礼拝を支える祈祷

そして主イエスがお語り下さった**常に祈る**ことは、御言葉と洗礼・聖餐のすべてに伴うものです。神の恵みに与っている者が、神との交わりを祈りを持って深めるのです。神さまに対する祈りは、礼拝が充実しているからこそ、充実してくるものであり、礼拝を守ることは、日々、家庭にあつてあるいは個人にあつての御言葉と祈祷の礼拝も、豊かなものへと導くのです。

#### IV. 祈禱の生活

##### ①主イエスの祈り

主イエスは、繰り返し祈っておられました。21:37を読むだけでは、「オリーブ畑」で夜を過ごされたことしか書かれておりません。しかし22:39～では、いわゆるゲッセマネの祈りが記されております。主イエスは祈るためにオリーブ畑に行っておられたのです。決して、最後の晩餐の夜だけではなく、エルサレムに入られてから、毎日、この様にオリーブ畑にて祈っておられたのです。そればかりか、エルサレムに入られる前からも毎日祈っておられたのです。祈りによって、父なる神さまとの深い交わりがあるからこそ、弟子たちに教え続けられ、また十字架の苦しみに対しても、避けられることなく、向かうことが許されたのです。

##### ②祈禱から導かれる希望と喜び

私たちが主イエスのように祈りの生活を充実させる時、周囲の出来事、また私たち自身にもたらされる様々な出来事に対して、右往左往することなく、主に委ねて対応出来るようになります。これは最初にお語りしたように、周囲の状況を的確に理解しつつということなのです。知らずに避けるのではなく、今の状況を十分に理解した上で、主に委ねて祈り続けるのです。神によって捉えられ神の子とされた私たちは、この世の束縛や思い煩いから内面的にも外面的にも解放されたのです。神さまを信じる信仰から、特に神との交わりであります祈りを通して希望が与えられ、そこに喜びが伴います。

キリストの十字架と復活は、私たちも肉体の死を遂げても、なおも神さまによって復活させられ、神の国において生きる希望を与えて下さいます。

ハバクク2:3-4

たとえ、遅くなっても、待っておれ。

それは必ず来る、遅れることはない。

見よ、高慢な者を。

彼の心は正しくありえない。

しかし、神に従う人は信仰によって生きる。

ルカ21:33

天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。

今語られた御言葉が、神さまによって成し遂げられることに感謝を持ちつつ、希望と喜びをもって、一週の時を始めていきたいものです。

(お祈り)